

Handwritten title in Japanese calligraphy: 服部文庫 上

服部文庫
117
461
1



461
1

本居大人著

詞話

浪華

八書墨櫻

言葉乃やちゆ多序ハシラフミ

所ウタより美しむ人たりしをほしあり。まて

ふしんまあびよこはなまはまらむひや

詞コトバの道ふがわきつるべし。そはつやるの書

ぎのまはまはな。歌くまを。そのふ心と。海

やふまはまは。てふをばのこころを。辞コトバ乃

まはまは。その世乃おのふきぬ乃新辞

○やちまへ上

一〇一

おろろるはま。やびうなるこふなむ。やうくは
御うよあぢうくあうでい。えはうるかーんをを
ちう。うも同乃学ひやうてう。うらふ^{イッラ}五十連
のこゑ乃たてぬきよよやうて。ぶ考よぶ^{コエ}。
そもくこの五十連乃音と^{イッラ}子物入乃口上祭
出^{コエ}音乃のう祭とけうて。たぐさうて
れまにう。よふあめまふく。ゆんやう

たひてあむあま。辞^{コトバ}のまむくあま
か^{ヨロヅ}の勢。あ^{ウツロ}う^{シテ}轉^シてせう。考へあうむるに。
一やうてゆづうくこやぬ久。らやうくはし
くあう物なうらや。そはそふを彼のら
のくが那ぼらひのけう^{コトバ}のそまう^{コトバ}の
らびちみ。云^{コトバ}れ^{コトバ}う^{コトバ}後^{コトバ}は^{コトバ}ま。自^{コナ}他^カの^ナの^タら
たむ。ふこの^{タテ}短^{ヌキ}律^{ヌキ}れ^{ヌキ}ま^{ヌキ}ら^{ヌキ}よ^{ヌキ}ら^{ヌキ}せ^{ヌキ}く。

○やちやうこ上

○二

わふま入なせるよ。このつきのなつた言乃たり
サトビコトバ
 れたる言。ふあふ言のこはしゆぐ。
 書下りしもなむれまきゆこまなくあ群
ヤチマタ
 けりる。けもつげハ巷ふもきまへしる。詞
ハタラキ ヨキダ
 け活用の。四段より。一段より。中フタの二
キタ フタキタ ヨクサ
 段。志を乃二段なき。四種ふあはるも。
コノキダク
 もほり此段より。考へはがきしもご

るこゝろ。かそめの假カ字ナの書フミ。とふ
 き段の書フミも。たにぐ留考へあふう後て。
 今にむらほあふく月ぐも那あねを。この
 言葉のこゝろも。この事ハ。いもごきり
 あまほく入る人もなく。そへきやしたる書フミも
 思ひけりる後バ。こゝろ鈴屋夫人乃真子
モトヲリノウシ
 けりれ奉居夫人とこゝろあはる。春庭君あし
ハル ニハシキミ ヨロツ

○やちまのこ上

○三

考へたりて。此二卷フタマキよあむあし〜出候し

り候。一巻をこの。言察乃道れあやう

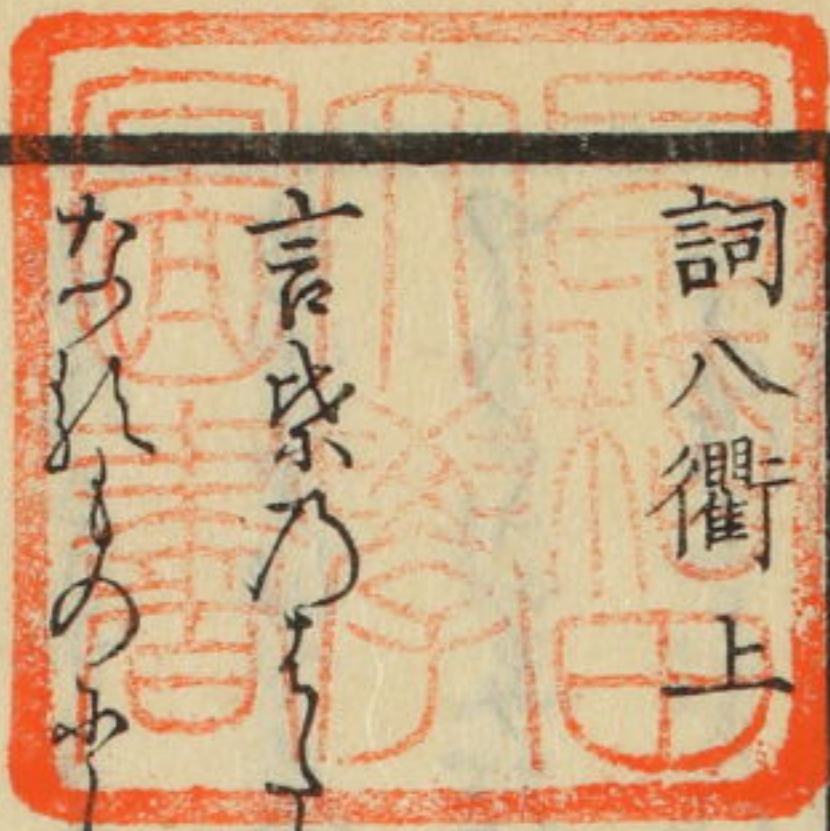
あるまぢく〜入たせぬま。りみぢき

ある信又よハ行り候やくふ。文化三年

五月十三日。尾張植松有信。
ヲハリノウエマツノアリノゲ

詞八衢上

本居春庭著



言察乃〜たに〜志〜む〜く〜た〜
たれよの〜ひ〜た〜そのは〜ゆ〜より〜
察〜手〜志〜ひ〜意〜た〜な〜く〜の
〜ら〜ゆ〜流〜ゆ〜を〜ら〜り〜か〜ま〜
ゆ〜ま〜ま〜れ〜お〜の〜お〜も〜
心〜り〜信〜ま〜あ〜り〜ら〜こ〜も〜
ち〜い〜あ〜ま〜び〜や〜ふ〜た〜ぬ〜や〜あ〜ぬ〜
ま〜の〜活ハタキ〜ゆ〜わ〜た〜な〜む〜ら〜ま〜れ〜る〜
津ツ代ジよりシたタの

○やちまのし

やあむ道ふちぞ入てかかまむ一はるよなき日心人よく
たやるとそまがふことありん

○活ハまてつやむやくけりかぐなる中ふ四種の活事下ふ
やせもそれたぐひきぬぐひろくつやむやくしてこねなるぶ
ほさき他ホカあき形一次あはた志志き志くまき志きく
ことしく調のまかりその解乃そつたかねなくむきいそ
せぶく調やましく解けりて志志き志く志きくやそしく
あやも察やつやむかき後ぞこそた加加行のま活やくその解
のりふかくそしくたぐひ乃そ察なきれハ形せむ法を四種の
たきハホカあかきたなはまやらわ乃りふかーりやそしく

ふそくものまたりきある人よりぐに又四種三種あるハ三種
なぞは乃活もり察てつとけりかぐひろくさふ志きぐひてその活も
つやむやく一か続ハ先これ四種乃そつたをけとそきそそそらぶ
くそりのあなごりそそ一次くおそれようそそしく書志るそそ
それ解の種これそそつたハ別よあそそし

○四種のまそれとりハ四種の活一版乃活中二版の活下二版の活
け四つかり活のまゆハ次よつづーりてこれれれそそそりあるふり
そがれそそ事とりらつそそ目なそそたよ察りなれが今
かそにそそそるあう下も信くこの名とそそそ

○四版の活と反かきくけさ志志せこあふ第一の音より四の音

き。み。の。ま。の。ほ。く。四。段。の。ほ。乃。才。一。の。音。と。二。の。音。と。の
二。つ。の。ほ。と。か。ひ。く。用。云。へ。傍。く。と。ほ。あ。り。う。ら。る。て。に。と。ま。や。その。う。ら
と。か。ひ。も。ら。う。ら。る。と。國。の。ご。せ。し。ま。は。音。お。も。と。と。人。た。る。ハ。四。段
の。て。ま。き。れ。才。三。の。音。を。お。や。ど。く。切。り。調。と。辨。え。入。れ。か。く。と。と。う。ひ
て。う。ら。る。て。に。と。ま。も。二。つ。と。用。さ。る。と。や。四。段。乃。ほ。お。や。ど。ま。き。と。ま。は。し
と。と。人。た。る。と。四。段。の。ほ。れ。才。四。の。音。と。お。や。ど。く。あ。そ。の。む。よ。ひ。あ。く
う。ら。ら。て。お。と。も。も。お。や。ど。但。し。る。も。と。と。人。て。切。れ。く。と。と。案。と。傍。く
く。あ。や。と。と。と。か。ひ。さ。る。ハ。後。の。ほ。ご。ま。た。て。ゆ。く。ハ。萬。葉。集。十。六。春
野。乃。う。ら。ら。う。と。煮。良。思。丈。古。今。集。お。た。や。ひ。く。や。六。帖。云。お
松。が。え。の。と。ま。も。に。似。登。き。後。撰。集。と。ま。く。見。傍。と。人。を。あ。く。ト。那

大依日記云。似。登。き。乃。才。二。の。音。い。き。お。ひ。み。お。より。切。り。何。を。う。ら
て。お。と。も。も。お。や。ど。但。し。る。も。と。と。人。て。切。れ。く。と。と。案。と。傍。く

○中二段のほハ。あ。は。の。二。行。や。ら。な。才。二。の。音。き。ち。ひ。み。お。ハ
く。わ。も。四。段。乃。も。う。ら。ら。乃。才。一。の。音。と。二。の。音。と。の。ほ。と。か。ひ。く。用。言。へ。傍。く
く。と。と。案。なり。受。う。て。お。を。は。き。二。つ。と。う。ね。用。ひ。た。る。事。一。段。乃。ほ。ハ。四。段
才。三。の。音。く。つ。ふ。む。ゆる。う。ハ。四。段。の。え。た。ま。き。れ。才。三。の。音。の。ま。ゆ。何。の。う。と
お。て。う。ら。る。て。お。と。も。も。その。切。り。か。ひ。の。見。も。ら。や。ぶ。き。ら。う。や。ま。と
な。ど。と。用。し。れ。お。や。ど。く。れ。音。お。も。と。と。人。た。る。ハ。四。段。の。え。た。ら。乃
才。三。の。音。れ。俤。言。へ。傍。く。言。葉。の。か。た。て。う。ら。る。て。お。と。も。も。その。か。と
と。用。ひ。て。か。な。す。お。を。よ。り。お。や。ど。も。と。と。れ。お。と。と。人。た。る。と。四。段

の活乃才四の音乃活をねらどくこをれ結びやくうらうらてふをとも
まゆよこやなるこゝかー

○下二段乃活ハ十行あやぶくく行字第三此書うくもつぬふむゆる
うハ四段のえたき此才三の音れ切取てや紫乃えてふれめふて交
るてふをえをねらこをもちうのね紫まこれ音ふほもしとそ入てつた
るハ四段のえたき此才三の音の音言へはぶく詞の加たてうらうてふ
をえをねらこ乃てよをを試用するなりまこまーをとり入たはハ四段
乃んてうき此才四の音やねらどくくそのむまびまや紫まうてうく
活てよををねらこはあや一才四の言えけしてねへめえまゑハ四
段のえたき此才一の音や才二の音ををめゆく用えへはぶく詞ま

うらうらてふをともそのやうにさめゆく用する事一活の活乃いきにひ
みお中二段の活のきちひみいこおをねらど

○さてゆくうらうてふをともは四段をだにせゆてわげうらうきままぶ
つくと益益のくやねらもよ人である候は候とまてうくれてにを
はらふ乃てく横おをほわくくまこーをたうてうくたてく
活ハ四種の活河をわらうまやまよこれうらうてふをねは候もてまぶれ
が肝要なねらよくわきま人ありむぐたりあををさきてーぬ
まーれてよをを第一の音かたえまらうらうらハ四段の
らにてくまやまぶく第二乃書いきちあひみいおよりうらハ二段
乃んたきてく紫中二段の活く紫まらぶく才四此書えけしてねへ

みふ用云へはげけたるなり

○世ふつる下初の句へ四段の活ゆくへ第四に音けせり。そのまにてはけ。わ。せ。打。人。を。や。つ。ひ。て。ま。ぬ。ま。ら。下。か。の。句。を。あ。れ。と。一。段。の。活。ゆ。く。へ。身。二。の。音。い。き。に。い。み。お。よ。も。と。を。と。く。て。拾。遺。集。小。や。く。ま。み。を。老。の。衣。き。よ。君。古。今。集。二。山。の。さ。く。く。を。あ。を。洗。せ。ま。見。よ。晴。冷。日。記。小。ま。ら。ひ。お。よ。お。よ。を。む。ま。ひ。し。の。あ。や。つ。ひ。中。二。段。の。ま。ら。き。も。身。二。に。音。ま。ち。ひ。み。い。て。お。よ。よ。も。と。を。と。く。て。古。今。集。よ。あ。れ。ひ。く。を。ま。は。よ。は。よ。と。つ。を。海。一。あ。る。は。何。云。乃。か。う。ひ。ぢ。吹。さ。ら。よ。吹。向。を。わ。き。ま。ら。う。み。う。は。な。相。決。藏。開。ま。ま。お。も。る。ま。ま。く。た。よ。ひ。免。松。拾。遺。集。一。ひ。ら。ひ。ら。け。き。も。の。き。こ。や。よ。と。や。あ。や。つ。ひ。下

二段の活ゆ身四の音えはせて。祢へめえき。息ふよも。と。を。と。く。て。古。今。集。よ。人。よ。を。は。が。よ。あ。れ。は。は。ら。び。拾。遺。集。小。あ。ち。ぬ。か。を。あ。ほ。ひ。打。せ。よ。ま。く。海。は。け。り。あ。き。ひ。し。子。代。乃。な。み。ら。う。古。今。集。に。わ。は。げ。い。ま。ら。を。よ。ゆ。ま。て。う。う。と。音。ま。る。盛。集。よ。ま。な。ま。や。ま。光。余。古。今。集。に。と。ひ。ま。ら。を。れ。よ。技。を。お。も。を。な。ど。あ。り。て。この。三。種。乃。活。ゆ。へ。か。く。よ。じ。と。ま。ら。ね。い。下。か。乃。活。ゆ。は。お。ら。し。ゆ。る。な。案。た。ご。う。ら。く。ハ。ト。二。段。の。ま。ら。き。活。ゆ。い。よ。文。字。と。く。人。だ。古。事。記。下。卷。哥。小。加。理。許。母。能。美。陀。礼。婆。美。陀。礼。續。紀。宣。命。小。か。く。わ。り。し。て。い。あ。る。こ。や。止。等。の。ま。た。よ。萬。葉。集。二。は。ゆ。ら。る。ぬ。國。乎。治。跡。回。る。た。不。率。ゆ。ま。ら。く。あ。ま。ら。思。良。之。米。同。十。七。阿。比。見。之。米。等。曾。同。十。八。一。ら。く。た。き。ち。あ。れ。く。之。

○やちまらこ上

○十

おあどきこころうつふきをわざと見てもあるべし

○四段の活乃才一乃音かさたはせらよりゆるろ舞やうちあ
ゆるねらうねなぞうくたせ第二乃音きまぢひみまよりゆき
あせせ榮な露ゆき祢らるねなぞうけてるせなを祢をたあど
ろやなれをせせれうくたせあり此音よよそそえかろたあり一段の
うてうきと中二段の活ハ才二の音いきまぢにひみいせおよりきあせ
みあ露らねみねとつひて右れうろをかし下二段の活ハ才四の音え
けせでねへめえれえよりうけあむ寄あむうけ祢よせ祢やど
ておあどくうろとうゆたうくは前段乃活やうくたの活うくそのま
きわうちあうねあり右のな露祢をえハあせあせこをたあど

こせ榮あれさうくたてふをたれとろろへハのせせはくく固小まろ
たうてふとはふつふわう後たせは四段乃うてきれ第一の音よ
どうくたと才二乃音よまうくたせ才二の音れ切ゆく葉より受
係とまこけく洞と栄うくたと第四音よ榮うくたをありふみつ
おのく全くし他よまをより混むるうあふなり

○中二段の活乃才三の音ふはトとそくくるはるうむゆる
ゆゆると俗言ハ才二乃音にうけしきたちれひたみれつれ
あれめれとつとたくるとあまけやげるとらけうゆると
らみるあぞつるがごせー又下二段乃うてきれ才二乃音にる又字を
そへてゆるくるもるつるめるうむるゆるゆると俗言は

加行の圖 並受つてふとはの事

	四段の活 吹 ^フ 飽 ^ル	一段の活 着 ^キ	中二段活 過 ^ス 起 ^ス	変格の活 來 ^ル
	(か)	(き)	(き)	(こ)
でせ	きむぬトでせ	きむぬトでせ	きむぬトでせ	きむぬトでせ
りて	(き)	(き)	(き)	(き)
きつ	りむきつ	りむきつ	りむきつ	りむきつ
	(く)	(き)	(く)	(く)
えう	りむきえう	りむきえう	りむきえう	りむきえう
	(か)	(き)	(き)	(か)
まか	りむかまか	りむかまか	りむかまか	りむかまか
	(け)	(れ)	(れ)	(れ)
た	りむた	りむた	りむた	りむた

○変格の活へくるを子河のよみてふかき活きゆうとふ
とくやぞあけ〜但〜去去う乃てふとをうらハギ
き〜うなごきよやれ〜うら格あるを重ハ〜まれめて。○
こ〜かやせこよりうもなるやけをく〜の活ふ才女の着み
〜〜〜〜〜の〜〜外上倒中〜下か〜の〜をゆへこ
この〜〜の例あり

四段乃活詞

あく

あく

あかく

あざげ

そごろく	そごろく	そむく	そよぐ
そごめく	たぐ	たぐ	たどろく
たぐ	たどびく	たひく	たまやぐ
ほく	ほく	ほぐ	ほく
ほぐ	ほなぐ	ほろづく	ほろぬく
おろろく	やぐ	やぐ	やきめく
やほぐ	やほぐ	やよろく	やよぐ
やよめく	やよろく	なぐ	なぐ
なけく	なびく	なぐ	なまめく
ぬく	ぬぐ	ぬろづく	ぬぐ

のく	のぞく	こく	そく
えぐ	えどく	えてく	えぶく
えれく	ひく	ひどづく	ひく
ひく	ひぐ	ひろく	ひらく
ひろめく	ひろめく	ひろく	ひろく
ふた	ふせぐ	ふづく	ふぐ
ほぐ	ほぞく	ほのろく	ほく
ほく	ほぐ	ほろろく	ほろろく
ほろく	みかく	みどろく	みどぐ
みろびく	みほぐ	みほく	むく

○やちきこ上

○十七

ちごく	せぐ	えごく	やく
やちごく	ゆく	ゆらく	ゆらく
よく	わく	とく	わくやく
りちごく	ゑちごく	ちちごく	ちちごく
ぞえく	せちごく	ちちごく	ちちごく

○右小筆たる所の凡そ○乃下をつきするきまの活の證と
 下小筆たる所の凡そ○乃下をつきするきまの活の證と
 ○右にゆりたること葉の外何れも○とて多かるべし
 ことこのも○なり

○あがく 新撰字鏡小疏阿加久と有り

○あざやぐ 源氏物語寄生小阿倍すつらゆけは和名抄より
 喘息安倍岐枕草紙小阿倍すつらゆけは和名抄より
 くまきまにあべさまのいなきつらゆけは和名抄より

○あゆぐ 拾遺集物石小阿倍すつらゆけは和名抄より
 小阿倍すつらゆけは和名抄より

○いぐ 六帖四下つげの日のえさうけり物語系使小阿倍すつら
 これめち拾遺集列小阿倍すつらゆけは和名抄より
 選集意小阿倍すつらゆけは和名抄より

なりけり手習巻小阿倍すつらゆけは和名抄より

○うたげく 木元抄借よりうたげくやあり

○わづらう 万葉十卷よもき可豆良伎十九小藪可牟ま
可豆良久ハ山まゝ日け可豆良家流やむサヤ

○かひらう 和名抄小舩加比路又注小舩不安也やうらひ
乃くきこゝ成なる

○きまめく 枕草紙小きくきくく海舟のまきやあり

○きうめく うの不相借後蔭小きくききてこつら

○くく 古事記上小ワがたふきう久岐斯子也万葉集
十七小影この多知久吉十九小立久久等しつらにちう

○くつら 源盛みとつらふくはらぐとらもけうこれ

若菜よ小冠乃しきまこくけうきたるまて枕草紙小く
ろきてなごつら

○くぐく 住者抄借よりくぐくは本集はぬくのこまぐ
くぐきつらわらわあり

○けさやぐ 源氏抄借よりけさきぎまわぬごらう

○ころく 和名抄小嘶咽古路々又やうらひ色あり

○さやく 後撰集よりさやくやきく色バ云くやう聚

○りくく 万葉二言佐敷文より

○あごく 古今集抄よりあごくは花やとあごくは
多しゆ丹後守為忠家百首小仲正色くれバむあご

小志。○古。○事。○記。○下。○卷。○八。○や。○う。○れ。○つ。○も。○あ。○る。○炭。○焼。○さ。○う。○ひ。○ら。○り

○古。○辰。○く。○萬。○葉。○十。○九。○小。○底。○こ。○し。○み。○之。○都。○久。○や。○を。○催。○馬。○樂。○小。○江。○の。○波。○為。○尔。○之。○良。○太。○万。○之。○津。○久。○也。○云。○々。○古。○今。○集。○水。○の。○お。○も。○し。○志。○づ。○い。○花。○の。○又。○は。○や。○う。○に。○そ。○な。○や。○ら。○や

○古。○く。○う。○ら。○ほ。○拙。○語。○あ。○け。○官。○小。○本。○丹。○実。○松。○の。○葉。○を。○ま。○れ。○て。○云。○み。○又。○う。○ら。○は。○ち。○つ。○り。○く。○わ。○け。○み。○く。○ゆ。○い。○て。○ま。○れ。○つ。○ま。○て。○あ。○り。○ま。○る。○源。○氏。○若。○菜。○よ。○け。○る。○が。○さ。○し。○の。○け。○る。○や。○て。○ま。○れ。○た。○く。○ま。○つ。○れ。○金。○葉。○集。○連。○奇。○小。○春。○乃。○田。○小。○ま。○き。○つ。○ま。○ぬ。○が。○さ。○れ。○ま。○ち。○ら。○れ。○の。○ま。○ら。○ら。○に。○水。○と。○つ。○ま。○ぶ。○や。○な。○し。○つ。○ま

○古。○み。○や。○く。○新。○撰。○字。○鏡。○不。○除。○悞。○惶。○遽。○也。○於。○地。○加。○志。○古。○弥。○須。○弥

也。○久。○ま。○る。○詞。○夜。○集。○遠。○小。○ま。○る。○や。○う。○れ。○つ。○も。○あ。○る。○炭。○焼。○さ。○う。○ひ。○ら。○り

○古。○く。○古。○事。○記。○下。○卷。○八。○や。○う。○れ。○つ。○も。○あ。○る。○曾。○岐。○を。○り。○も。○し。○や。○ら。○り

○古。○め。○く。○枕。○草。○紙。○う。○つ。○の。○む。○や。○と。○う。○り。○き。○と。○ら。○り

○古。○ろ。○く。○文。○本。○集。○上。○巻。○を。○ろ。○き。○つ。○る。○山。○乃。○そ。○の。○雲

○古。○ほ。○く。○保。○氏。○賢。○本。○卷。○小。○ぬ。○ま。○く。○う。○ち。○を。○不。○ご。○は。○そ。○井。○川。○ま。○り

○古。○も。○ろ。○は。○や。○ま。○て。○や。○あ。○り

○古。○た。○く。○萬。○葉。○二。○多。○氣。○と。○ぬ。○色。○多。○香。○根。○ハ。○長。○き。○九。○小。○切。○多。○久

○古。○ま。○は。○十。○小。○手。○寸。○と。○ろ。○へ。○と。○ま。○る。○く。○云。○い。○が。○あ。○り。○又。○十。○四。○り

○古。○は。○多。○具。○も。○十。○九。○上。○馬。○太。○伎。○ゆ。○き。○む。○中。○あ。○れ。○ハ。○お。○お。○り。○と。○を

○古。○り。○別。○あ。○る。○も。○ほ。○ハ。○お。○お。○り。○と。○を。○あ。○り

○大さやぐ 源氏総角たさぎぬべきあり
 ○ゆきく 萬葉十六小石もちて都追伎座づりあり
 ○ゆきく 古事記上巻ふとね都羅々玖
 ○やづぐ 和名抄止豆木乎之閑止里又祝詞嫁継給豆
 ○やづぐ 重之集よめもやうやゆめづぐゆけ梅もよあり
 ○やよく 日本紀の鳴响騒動誼言誼諱カクと志くそ是也
 ○やろく 古事記上巻ふとたの斗呂々岐豆とあり
 ○なぐ 古事記下巻ふ必自跛也字鏡小驥足奈戸又馬又
 和名抄の蹇訓阿之奈閑此間云那閑久まの蜻蛉日記三つ
 なぐとくまのあぐあり

○のく 堀門二郎百首よるるさるはたらしめやこや
 よるる積まうとおや
 ○まぶく 万葉十四波自伎木まそあり
 ○またく 水取物語のみまゆりてとてくあり
 ○まろく 蜻蛉日記三つおはるるやうおぞおはゆれ
 ことらふとくまふしとれきなぐとてきつとてやてんて
 だれまを倍く才四乃音よるる乃てにまをぬくくは四段
 の活句の例あり下二段の活句はるるをまをぬくことや
 俗云の例ありむまがむべり
 ○ひらく 源氏幕木よるるおたるとあり又紫式於

日記に於て多しやうにくらひて居る事多し

○ひろく、枕草子にひろく記してあり

○ふたへく、日本紀に悲恨哭志念などあり

○ふたへく、蜻蛉日記にふたへく記してあり

○ふたへく、蜻蛉日記にふたへく記してあり

○ほろく、日本紀神代卷に神祝祝之やあり

○まろく、古事記中卷に枕其後之御膝萬葉集五ふ

人のひざのくわが摩久良可武多とあり

○まろく、字鏡に暄目數動良万志呂久とあり

○みろく、万葉三小潔身而麻之乎安松中御言とあり

○みだく、万葉十八より美都久のくわが摩久良可武多とあり

けう弥豆伎のくわが摩久良可武多とあり

○ゆろく、万葉二十より良父のくわが摩久良可武多とあり

○ゆろく、任吉物語にゆろく記してあり

きたれそふたへくのあり

○よく、後撰集秋に宿とあり

るき秋の月又よむぞとあり

元真集にものねとあり

道ハよむに秋衣三ふとあり

○やちまこ上

ひきよぬわがまゝのれぬ川百そふきよひきよのれぬわがまゝのれぬ
 切那丹後守為忠家百首に仲正ちまひける存存をむ中
 よくほくにたをぬあをゆてこの詞いけの中二段をゆて
 きてま全くわがまゝけまはやく例を多く引ゆせれなを
 ○わがまゝ 枕草子わがまゝやぎやあり
 ○まなぐ 字鏡と噪出氣息呻吟也惠奈久
 ○そく 万葉十七小呼久よのそくにふるれハ拾遺集
 ぶそしたるをきよせしや云くもやあり
 ○をえく 枕草子をえくやあり
 ○万葉三小見毛左可受仗濃十四つ波可馬可毛ありハ

全くこれらもきよのそくにふるれハ拾遺集
 例も多く又やくもたよくゆて詞のまゆもはるぞのハの依
 詞のゆたにきよはるまてこの詞いけ下二段のまてはるま
 へるまをゆてきよぬつてけえくまてきよ例ありまて
 ぶつたにまてはるまのまよりうらるハ四段の依身四れ音
 よりまてハ下二段の依身ま上よりまてはるま

一段の活詞

着
 ころる

○うらぐら 古事記中巻小むらみく小宇羅宣て又下巻小
てあり又うらぐらとて又初てあり

○かたぐる 古事記下巻に姿體瘦萎カホタチキナカトキナ云々源氏物語本カホタチキナ不
かたけたる云々堀川次帝百首より一きり行るひつどれど
けつてえみなることあり

○かたぐる 日本紀皇極巻小感をかたけとて又續日本紀
宣命小感天又万葉十六にありけりや坂間毛而をむたご
のこありてかたぐるにえはれをきこころははるをあり
○さぐる 拾遺神樂奇小さげとてきて催馬楽小や人乃
はぐるやとてとてかたぐるなり

○あぐる うらぐらお徳國讓乃まにかりぬ乃むやくま
るれハ忠見集まつたぐりかみのまぐるはまぐに

○あぐる うらぐら物語吹上の巻上よひまがたうえ
金葉集九よひはまがたうらぐらなり

○まぐる 古今集おふに彼のまぐるへゆがむまぐる六
帖五の下ふすげてひくまらむ枕草紙おらむの法まぐる

○まぐる 源氏野分小まぐるけたるまぐるよりゆがれう
一叔本寄秋集に電まぐるぬやれうひはまぐるに
くまぐるまぐるけりまぐる 丹後守為忠家百首小まぐる
ぬまぐるまぐるのまぐるまぐるぬまぐるぬまぐるまぐる

○のくる 伝者抄諸小遠くね。く。て。ミ。あり

○さぐる 萬葉集二ふつ。と。さ。ま。波。氣。ま。た。作。留。わ

ざを云くたふあり

○さかろ 傳者抄諸俊落下ふきこえ。と。れ。り。せ。あり

○源氏ものかきやな。に。り

○ひくろ 源氏あかゆ。に。む。の。を。ひ。け。て。松。平。以。狭

衣。二。子。む。ね。も。ひ。り。方。る。や。あり

○ひたろ 源氏源。に。ひ。た。け。て。母。を。す。り。ひ。ち。又。若。菜

み。り。まり。ひ。た。き。て。ね。も。し。げ。あ。き。ハ。榮。夜。も。の。ご。り。初。花。ふ

内。乃。以。使。え。ひ。さ。け。く。ゆ。わ。ん。ぞ。云。く。あ。り

○ほろ 源氏明石ふ。ほ。く。く。云。く。た。や。れ。あり

○ほろ 源氏螢にみちをかく。初。落。げ。て。せ。以。魚。を

○むろ 万葉ふか。と。武。氣。た。つ。が。あ。ど。り。や。り。ま

○やろ 万葉一にむ。い。ぞ。所。焼。ミ。よ。案

○わろ 傳者抄諸吹ふつきれ布のわ。か。た。る

○わろ 万葉五。和。和。氣。こ。あ。る。や。よ。あり

○古事記中巻歌ふた。波。氣。ま。と。万。葉。十。四。五。あ。を。ね。

奈。久。流。れ。下。を。か。く。あり。あ。れ。ハ。と。か。せ。な。や。し。の。地。

なる。に。く。乃。流。し。ば。あ。ち。あ。い。ま。け。ら。よ。あ。く。り。も。ゆ。

世。源。氏。よ。智。ふ。け。く。り。り。り。云。く。あ。る。さ。へ。の。

けがまりたるあくゝぬれぬきにわたりてさへかく物たるが
 をぐくひつら乃活こ盛やまねやまゝにわたりてさへかく物たるが
 うねどこぬこくゝぬれぬきにわたりてさへかく物たるが
 まゝをくゝぬれぬきにわたりてさへかく物たるが
 志うつひてゝかきねやかう志むるこせぬきにわたりてさへかく物たるが
 ぶやうハきこゝろがくゝぬれぬきにわたりてさへかく物たるが
 あげがぬなる^{ホカノクダリ}他行もこのたぬきにわたりてさへかく物たるが
 どの活ふ子だ

左行之圖

並うらうらにどそのか

下二段活	變格活	四段の活
瘦 <small>ヤスル</small> 合 <small>アスル</small>	為 <small>スル</small>	指 <small>サス</small> 押 <small>オス</small>
(セ)	(セ)	(さ)
きむぬトてを	きむぬトてを	きむぬトてを
	(一)	(一)
けつて けつて けつて	けつて けつて けつて	けつて けつて けつて
(す)	(す)	(す)
けつて けつて けつて	けつて けつて けつて	けつて けつて けつて
(ま)	(ま)	
けつて けつて けつて	けつて けつて けつて	
(せ)	(せ)	(せ)
けつて けつて けつて	けつて けつて けつて	けつて けつて けつて

○いけふの二段の活中二段の活なり但し古事記上卷小根許
 士。許。士。而。も。二。万。葉。八。小。伊。許。自。而。う。ゑ。一。な。を。あ。る。は。ま。

つらちまき上

○そぎ	そぎ	たぎ	○たぎ
たてまじ	たて	たて	○たて
ちり	ちり	ちり	○ちり
○ほぶ	ほぶ	ほぶ	○ほぶ
ごきめ	ごき	ごき	○ごき
こや	こや	こや	○こや
かつ	かつ	かつ	○かつ
なや	なや	なや	○なや
○ちり	ちり	ちり	○ちり
みぎ	みぎ	みぎ	○みぎ
みぎ	みぎ	みぎ	○みぎ

ちり	ちり	ちり	○ちり
ちや	ちや	ちや	○ちや
○ちり	ちり	ちり	○ちり
ひが	ひが	ひが	○ひが
うら	うら	うら	○うら
ほの	ほの	ほの	○ほの
ま	ま	ま	○ま
ちや	ちや	ちや	○ちや
○ちり	ちり	ちり	○ちり
む	む	む	○む

○ちりまへ上

○三十二

アぞこちひうふうあうらゆがまをくれあをりせ

○いそがを 源氏桐壺ふいとあせばすく浮舟ふたつをがくに

いそがしつばきまむあうけて右のぐやくせをこ才四の音

よりそのてよをいけたるち四段の活ハまをに能るう人を

つゆ下二段の活ハつとあつらひのてつとあはなり何れ

のゆてふあうりこて己よつとぐさううあてつるまねバ

こ乃てつときなるこやあれこれつとあつらひつとあつらひ

まれはたつとあつらひ

○うれがを うれがお借たづの村島の巻よはらるるあづつと

うれがをいそがえていそがえていそがえていそがえていそがえて

○うがを 出雲風土記に乗船而率巡八十島宇良加志給鞆云

○おろを 古今集別ふ人とんよわくつとあやこよめい活え

○たがを 枯草紙ふうり祓わうてたがはてとあつらひ

このてにをよふつゆ初をまする例あまを下二段の活ををこ

ちつづられ四段の活の中三乃音ハ切もせはぐくこをよひる

この上あきつひあをよもあつらひきあうこをかくたがはをハ下

二段の活をよもあつらひの活中もつとあつらひ活初をまする

て奉たるはんでこの初乃下二段の活をよもあつらひ

つひ四段の活をよもあつらひをよもあつらひ

あつらひはなう

く。見。く。ろ。を。か。し。え。く。や。あり。

○くろ。ほ。と。古。事。記。中。卷。歌。小。本。岐。玖。流。本。斯。と。あり。この
また。く。ま。ち。な。れ。べ。

○くろ。ま。と。神。賀。詞。に。つ。ぐ。黒。益。之。云。に。榮。在。相。諸。む。の。が
か。ち。に。い。む。く。ろ。ま。た。ま。く。あり。

○こ。ち。と。う。は。ほ。相。諸。後。薩。卷。に。本。と。ま。を。こ。ち。を。せ。く
何。の。も。う。き。か。り。

○こ。み。か。と。相。草。紙。ふ。く。ま。ほ。り。か。し。や。つ。と。に
○こ。や。も。日。本。紀。小。許。夜。勢。屢。万。葉。集。ふ。う。ら。な。く。許。夜
斯。れ。万。葉。ふ。ん。れ。あ。ま。り。て。才。四。乃。音。り。る。乃。て。よ。と。ハ

と。う。く。る。ハ。四。段。の。こ。し。き。の。格。り。り

○こ。も。出。雲。国。造。神。賀。詞。小。下。つ。ろ。の。小。や。凝。こ。あり。

○さ。が。と。う。は。相。諸。た。く。の。ま。ふ。ぬ。と。人。云。は。り。う。り。

て。ま。ま。と。桑。の。使。乃。ま。ふ。つ。ひ。さ。け。け。く。と。や。源。氏。中。や。
日本。の。ま。よ。さ。が。し。つ。榮。花。う。く。乃。初。小。さ。の。は。を。け。り。

相。草。紙。小。は。が。し。つ。る。紫。式。部。日。記。に。う。た。れ。及。古。し。と。さ。
が。い。ま。こ。た。ど。こ。え。たり。

○さ。ま。し。と。は。秩。衣。四。よ。さ。ひ。く。く。の。ひ。き。や。こ。り。に。

○ま。こ。り。と。は。源。氏。若。菜。よ。ま。こ。り。の。ひ。り。で。

○ま。か。と。丹。後。守。為。忠。家。百。首。仲。正。は。く。ま。の。あ。を。し。後

○ふりて 全史集意つらむを後のあらはれきりきれぢ
こひまゐる名をわづらひてかふとあり

○ほろろむを 源氏若菜よひまほろろむを
なれよ

○ほろかを おろろむは物語ふほろか
ほろかやとあり

○おやのほろかを うつほ物語藤原君のまゝよこ
ほろかよとあり

かろろろろろろ

○まろろろろ 袂衣二小雲まろろろろろろろろろろ

○まろろろろろ 枕草紙ふろろろろろろろろろろろろろろろ

たる云にせりろろろろ

○もやを 後撰集つらむなげまれろろろろろろろろろろろろ

忠集よろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

○やろろろ 万葉集二ふろろろろろろろろろろろろろろろろろ

夜波之あぢろろろろ

○ゆるがを 蜻蛉日記ふろろろろろろろろろろろろろろろろ

○ゆるがを 藤原ふろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

かろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

○よろろろ 古事記下巻小諺大目下王曰云々字鏡に諺と

己須 萬葉集十二卷ふろろろろろろろろろろろろろろろろろ

にゆろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

○つろろろ 万葉集十六ふろろろろろろろろろろろろろろろろ

○やちろろろろ

蜻蛉日記ふゆ。○。○。なまきり丹波守為忠家百首。○。○。忠
たしつとあるゆのこころにあらぬたをばなまきりをわらひこ
ろの那なみみえり

○をやも日本記欽明卷ノ毒害又仁徳卷ノ被蛇毒而ヨヤシノコナヒ

○古くまくとまきかすな分はとながけしちのたまを

たちをたくしあひとあしかし人をかきとせほむを

ほすまむむとふまをわををわすのれとのら

みやこの四段のまに延くつてみまのまをみ

か移を今は出さびなほのあまのりをも列ふら

りよ越しきくこの四段のまにまのまのまのまのま

くたつてまの他のけふ延くまをばハツてまを
つる例あり右のまをくつてくハ四段のまをばハツて
たる以万葉二の御言不御問をみまをまを又抄下を
に立為者とたまをばハツてまをまを又まを
こつて下二段のまをばハツて例はたつてまをまを
たせまをまをまをまをまをまをまを後せよハ
お清書なごにゆくまをみてつてまのりの下二段の清
うけりまをまをまをまをまをまをまを
○他りハまをまをまをまをまをまをまをまを
ホカククネ
と下二段の清くまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまを

あゝ中々万葉十一巻を晩師之雨のつる日と拾遺集にのり
てむぐくむぐくむぐく六帖ニまゝ六小なぐてむぐく
順集に雨くぬきと君やかくくく魚盆集より雨上
乃やとねばくくはぐ先よま重之集にたむゆきよかむ
はぐくく情心集にそのかむむくかばくく仲文集
今とそかへくくよ事やめらるる後も外もむかひ
はぐくく人き云々まてかむくぬのほむてくくく
はぐくくく人ぬくくつまてうけ不物くまふ命の屋
のまにあやこのくくあむせまう志くくは同くた分の
むく身れ巻くつめくあむはくくく同巻にてまはぐり

かきかきとての秋のまにころふねばくくくあまど
云々蛇吟見れよなまきあやゆきゆうはほのりくく
云々源氏如浩漢くまに春多れ清くまをゆくくねま
志ふ云々日藤事案巻わのくくからくく図のあぐく同ま
浩くのまふまげくくかうげゆよむもむ光くくくはま
同若菜巻にあまむげくくをぬぐくくかま日玉く
げくのまふなげゆきまきくくむぐくくやまて云々
同格振まにか乃女院びくくのやの光かくくをらちやま
同推奉まふげくくくくくと枕草子にまげくくくか
棠たわわたり衣の珠の巻小あやくくくくくくくく

〇四十一上

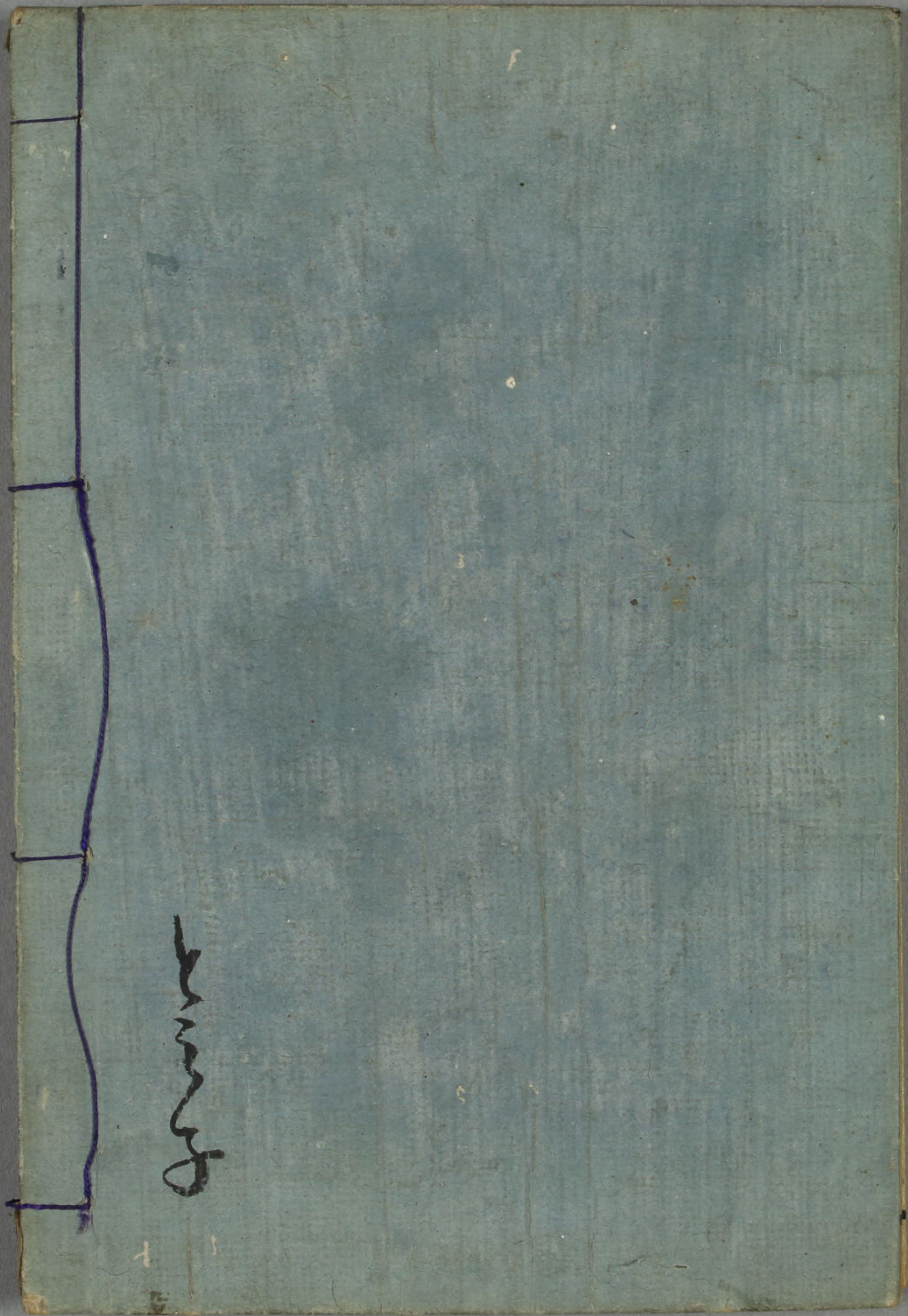
〇四十二

狭衣一の志ふ二乃をねのこせをのめや〜ハ同四の志をよ
ひきはれてきつちかぢ〜ハひま入るどれつをよ〜これ
らの志〜とつりちせ〜せや〜つづ〜おさる内志を志ら
らばそのゆゑを志べて國志を志ふせ〜つづの志のりか
るも四段の志〜き詞ハオニの音き志ちひみり〜と志去
れ志〜つづ〜志を志なり〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
のり四段の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
つづき四段の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
ハ下二段の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
の下二段の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志

遠なる志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
あ〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
れ〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
あ〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
二段の志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志
ま〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志〜志

ら愛やいと云々落窪小男のりも色下也源氏帚本にのりも
とあり世むの心さくねと又夕歌巻にも後かやらりやせむ
あをせバ云々頌集上のりも色下也源氏帚本にのりも
集にまなうはらりも色下也源氏帚本にのりも
ちや一の河あをせむあをせむあをせむあをせむ
くせやくちもせむあをせむあをせむあをせむ
右のとくつる一の源氏のりも色下也源氏帚本にのりも
ふすれバ四段の活も色下也源氏帚本にのりも
○つるのりも色下也源氏帚本にのりも
ほおのりも色下也源氏帚本にのりも

源舟か右大将の字依へのりも色下也源氏帚本にのりも
ふまのりも色下也源氏帚本にのりも
のたまもせむあをせむあをせむあをせむ
ほおのりも色下也源氏帚本にのりも
さそいも色下也源氏帚本にのりも
くあも色下也源氏帚本にのりも
あをせむあをせむあをせむあをせむ
○かゝるのりも色下也源氏帚本にのりも
多流古今集にかゝるのりも色下也源氏帚本にのりも



Dante